



皆勇ましましつゝ 喜ぶの陽気という

親神様は、陽気ぐらしを見て、共に楽しみたいとの思わくから、人間を創はめられました。私たち人間にとっては、陽気ぐらし世界を実現するのが、人生の意義であり、人類究極の目的になります。

明るく勇んだ心、それは陽気な心です。この陽気な心で日々を送るところに、真の幸福があり、生き甲斐があります。

どんなに長く信仰の道を行っても、心が勇まらずに、いずんでいては、親神様の心にかないません。

親神様のご守護のままに、日々、喜びと楽しみの中に暮らすのが、人の世のこの上ない味あじわいです。閉ざされた心の窓を開き、すみずみまで親神様の光を身に受けるとき、自らの暗い迷いの雲は晴れて、明るい

喜びの中に立つでしょう。陽気ぐらしとは、楽しみづくめの生活です。

陽気ぐらしは、他の人々と共に喜び、共に楽しむところに現れます。皆々心勇めば、どんな理も見え、どんな花も咲くでしょう。

陽気というのは、皆んな勇ましてこそ、真の陽気という。めんく楽しんで、後々の者苦ものくるしますようでは、ほんとの陽気とは言えん。(おさしづ明治30年12月11日)

親神様にもたれ、教祖をお慕い申し、教の理を心に治めつつ、お互いに心を合わせ、扶たすけ合あうて、陽気に暮らすならば、ここに頼たのましい道が現れて、その喜びは世界に弘ひろまって行きます。親神様はこれをお望みくださっているのです。

【天理教教典第十章「陽気ぐらし」参照】

本島大教会布教部(宮)



天理教本島大教会

教祖140年祭